

# 日本語選択科目の拡大と その評価

---

## Expansion of Elective Japanese Language Courses and Evaluation

JSAA 2005, University of Adelaide

桜美林大学 松下達彦

MATSUSHITA, Tatsuhiko

Obirin University

# 発表の概要 Outline

対象校のプログラムの変化： 選択科目拡大、現在のプログラム構成

## (1) 要因

- 学習者の背景の多様化
- 学生の個人差の質的・量的な拡大
- 教員の意識の変化

## (2) プロセス

- プログラム全体のシラバスの構築
- 「科目内選択」の試行

## (3) 検証・評価

- 日本語履修者数の増加
- 高い出席率
- 科目の設置形態の評価(全体／科目別／項目間の相関)

## (4) 意義・課題

- 学習の個別化と協働化のバランス
- 科目間連携など「言語プログラム」の管理

# 対象校のプログラムの変化

12年前(1993)

→

現在(2005)

留学生数 50

→

600(全学生の9%)

受け入れ部署 1学部+短期留学

→

5学部+院+短期留学

日本語履修者数 30

→

200

開講レベル数 4

→

6~7

基本クラス数 4

→

18

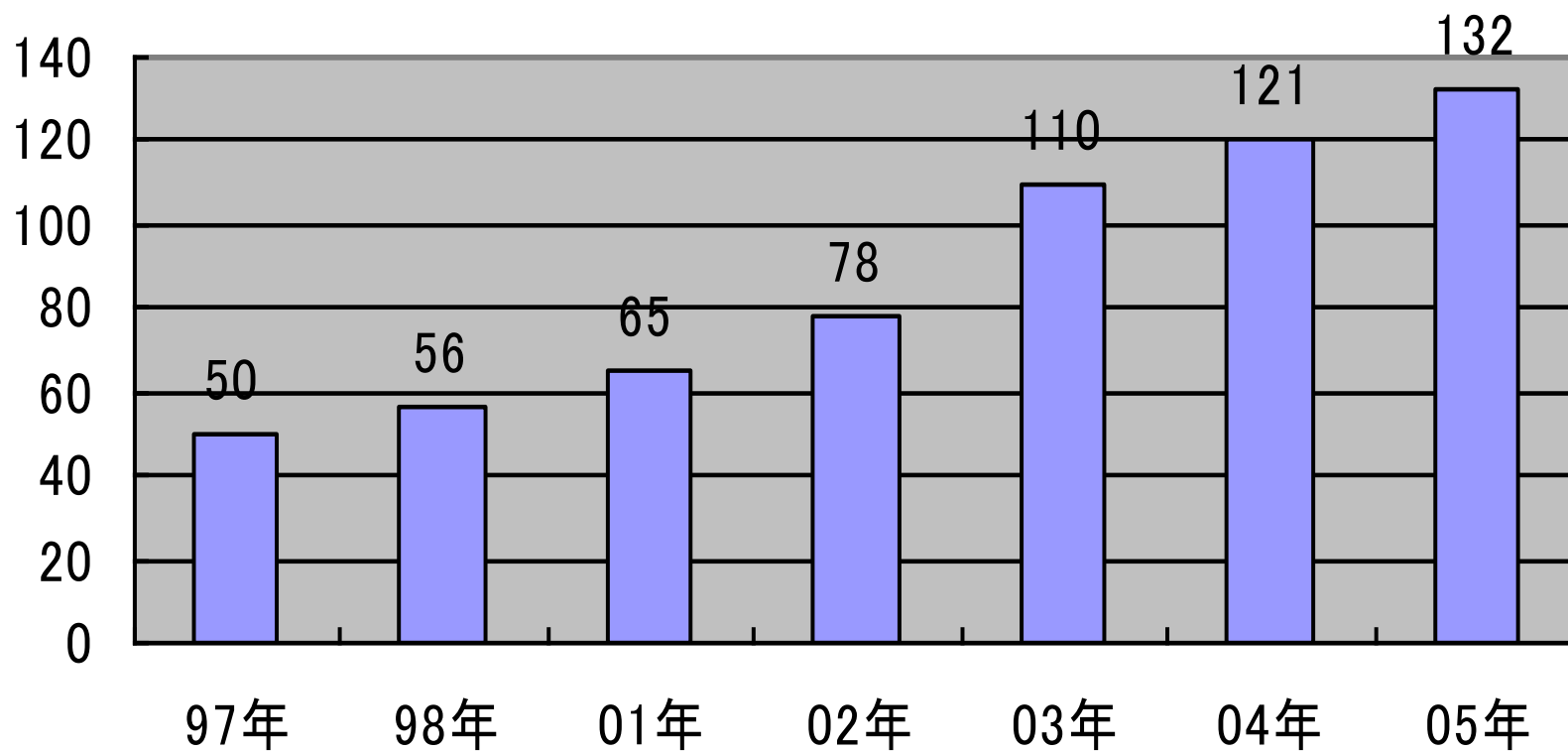
選択科目の数 0 → 2 → 12 → 19

(原因)

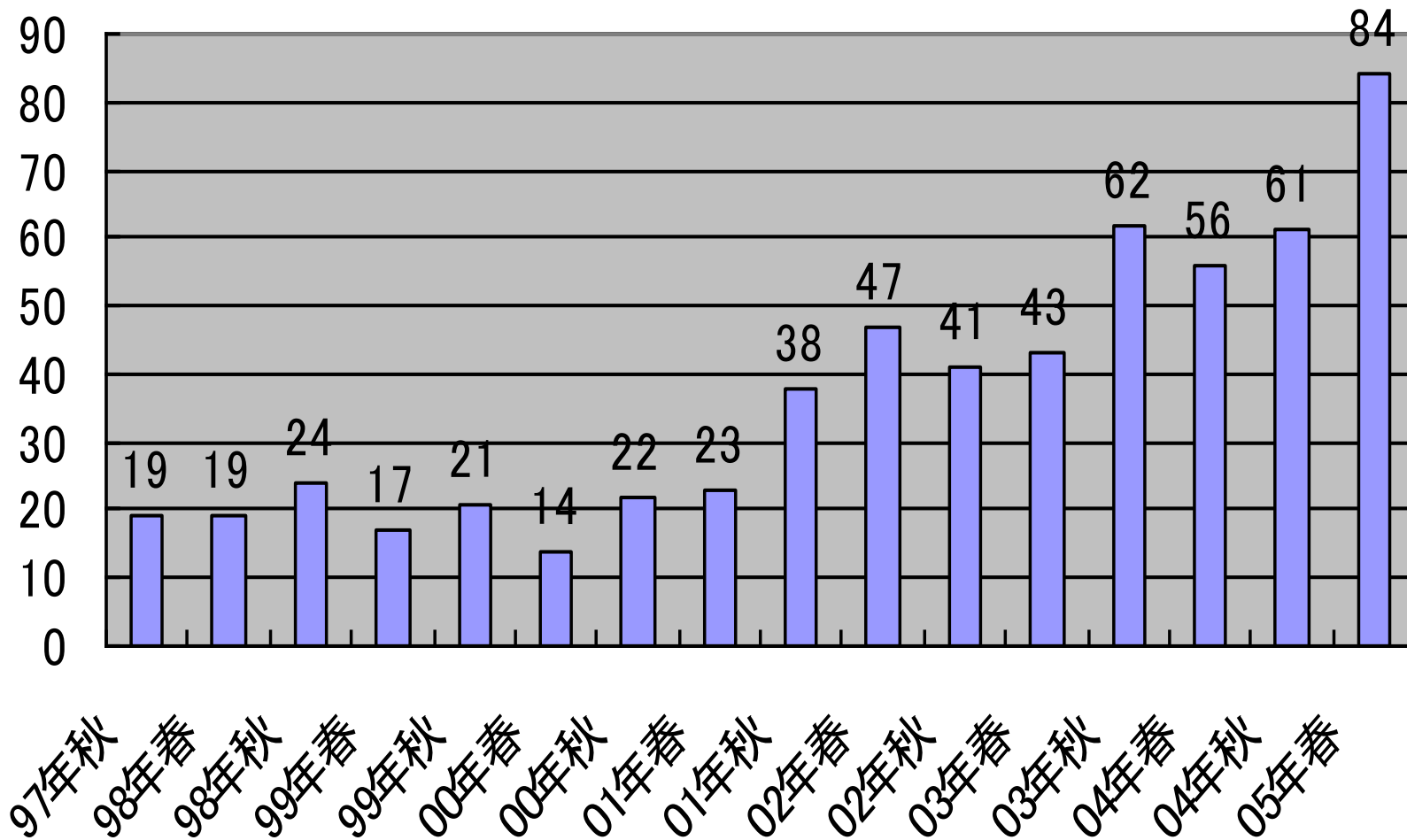
- ・アジアでの学位留学の増加による学部生の増加
- ・提携校の増加による短期留学生の増加

# 1999-2005 学部留学生合格者数(\*)

\*入学者数は非公表



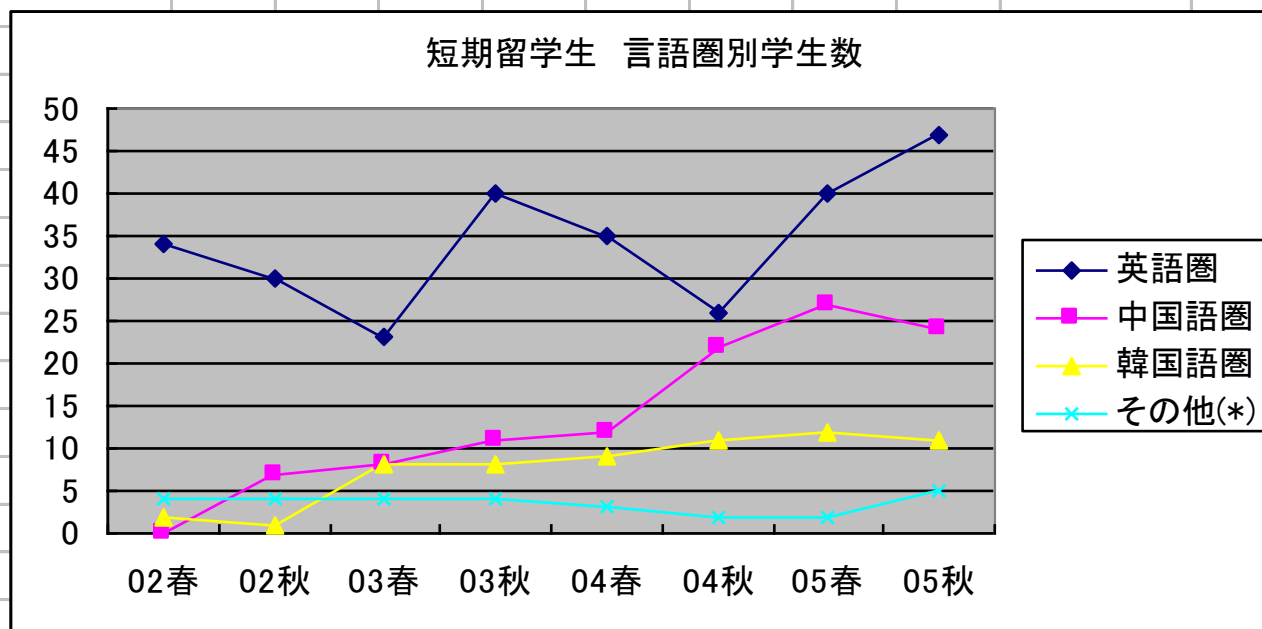
1997年度秋～2005年度春 短期留学生受け入れ数



## 短期留学生 言語圏別学生数(2002-2005)

	02春	02秋	03春	03秋	04春	04秋	05春	05秋
英語圏	34	30	23	40	35	26	40	47
中国語圏	0	7	8	11	12	22	27	24
韓国語圏	2	1	8	8	9	11	12	11
その他(*)	4	4	4	4	3	2	2	5
合計	40	42	43	63	59	61	81	87

\*その他には準英語圏のインド、マレーシアのほか、チェコ、ブラジル、デンマーク、スペイン、スウェーデン、フランスが含まれる。



# 現在のプログラム構成

## \* 学部1年生(中上級100余名)、必修

- ・日本語(専門基礎):2レベル、5学部、9クラス 一週4コマ
- ・日本語(チュートリアル):選択必修、11クラス 一週1コマ

## \* 短期留学生(80余名)＋学部生選択

- ・コアクラス:6レベル、7クラス(実質7レベル) 一週6/4/2コマ
- ・選択クラス:19科目(初級～上級) 一週1コマ
- ・・・上級へ行くほど増える

\* 2キャンパス  $45 + 45 = 90$  コマ/週

(1コマ=90分)

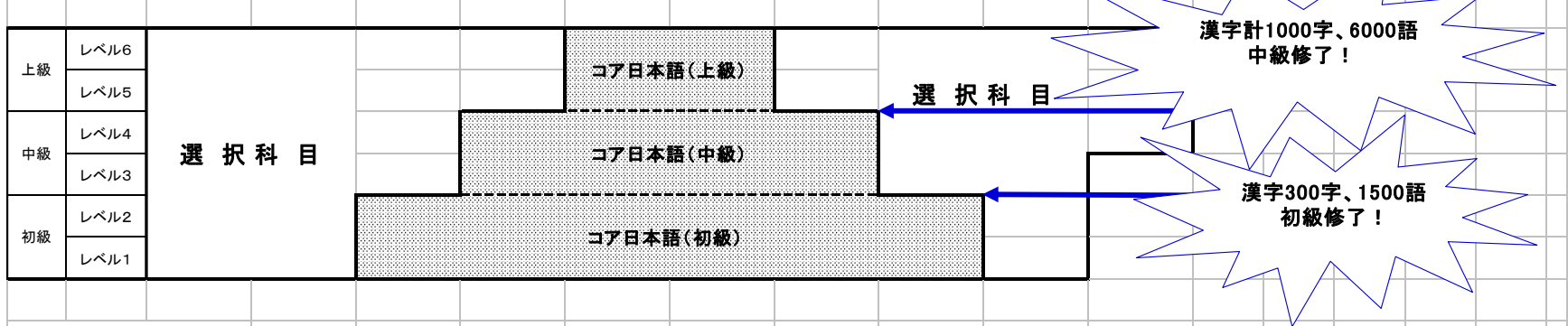
日本語授業科目一覧(2005年度)

授 業 科 目	単位数	対 象	
		レベル	
日本語 (専門基礎)	Japanese (Basic Academic skills)	4	4～6
日本語 (チュートリアル)	Japanese (Tutorial)	1	1～6
日本語 I	Japanese I	6	1
日本語 II	Japanese II	6	2
日本語 III	Japanese III	4	3
日本語 IV	Japanese IV	4	4
日本語 V	Japanese V	2	5
日本語 VI	Japanese VI	2	6
日本語 (サバイバル会話)	Japanese (Survival Conversation)	1	1～2
日本語 (漢字)	Japanese (Kanji)	1	1～4
日本語 (ディスカッション)	Japanese (Discussion)	1	3～4
日本語 (発音と自然な話し方)	Japanese (Pronunciation/Speaking)	1	3～4
日本語 (文法・中級)	Japanese (Intermediate Grammar)	1	3～4
日本語 (体験活動) A	Japanese (Experiential Activities) A	1	3～4
日本語 (文章表現・中級)	Japanese (Intermediate Writing)	1	3～4
日本語 (日本語で学ぶ現代大衆文化)	Japanese (Modern Pop Culture)	1	4～6
日本語 (文法・上級)	Japanese (Advanced Grammar)	1	5～6
日本語 (聴解とノートのととり方)	Japanese (Listening/Note-taking)	1	5～6
日本語 (新聞とニュースで学ぶ現代日本)	Japanese (News)	1	5～6
日本語 (文章表現・上級)	Japanese (Advanced Writing)	1	5～6
日本語 (職業コミュニケーション)	Japanese (Occupational Communication)	1	5～6
日本語 (対照表現演習・日中)	Japanese (Expressions in Jpn. and Chn.)	1	5～6
日本語 (体験活動) B	Japanese (Experiential Activities) B	1	5～6
日本語 (対照表現演習・日コリア)	Japanese (Expressions in Jpn. & Kor.)	1	5～6
日本語 (地理・歴史・社会の用語)	Japanese (Terms for Social Studies)	1	5～6
日本語 (上級会話)	Japanese (Advanced Conversation)	1	5～6
日本語 (文芸と表現)	Japanese (Literary Expressions)	1	5～6



授 業 科 目		単位 数	対象 レベル
日本語 (専門基礎)	Japanese (Basic Academic skills)	4	4～6
日本語 (チュートリアル)	Japanese (Tutorial)	1	1～6
日本語 I	Japanese I	6	1
日本語 II	Japanese II	6	2
日本語 III	Japanese III	4	3
日本語 IV	Japanese IV	4	4
日本語 V	Japanese V	2	5
日本語 VI	Japanese VI	2	6
日本語 (サバイバル会話)	Japanese (Survival Conversation)	1	1～2
日本語 (漢字)	Japanese (Kanji)	1	1～4
日本語 (ディスカッション)	Japanese (Discussion)	1	3～4
日本語 (発音と自然な話し方)	Japanese (Pronunciation/Speaking)	1	3～4
日本語 (文法・中級)	Japanese (Intermediate Grammar)	1	3～4
日本語 (体験活動) A	Japanese (Experiential Activities) A	1	3～4
日本語 (文章表現・中級)	Japanese (Intermediate Writing)	1	3～4
日本語 (日本語で学ぶ現代大衆文化)	Japanese (Modern Pop Culture)	1	4～6
日本語 (文法・上級)	Japanese (Advanced Grammar)	1	5～6
日本語 (聴解とノートのとおり方)	Japanese (Listening/Note-taking)	1	5～6
日本語 (新聞とニュースで学ぶ現代日本)	Japanese (News)	1	5～6
日本語 (文章表現・上級)	Japanese (Advanced Writing)	1	5～6
日本語 (職業コミュニケーション)	Japanese (Occupational Communication)	1	5～6
日本語 (対照表現演習・日中)	Japanese (Expressions in Jpn. and Chn.)	1	5～6
日本語 (体験活動) B	Japanese (Experiential Activities) B	1	5～6
日本語 (対照表現演習・日コリア)	Japanese (Expressions in Jpn. & Kor.)	1	5～6
日本語 (地理・歴史・社会の用語)	Japanese (Terms for Social Studies)	1	5～6
日本語 (上級会話)	Japanese (Advanced Conversation)	1	5～6
日本語 (文芸と表現)	Japanese (Literary Expressions)	1	5～6

# 2005年度 桜美林大学日本語プログラムの基本構造



## 春学期(4月～7月)

上級	レベル6	チュートリアル	職業コミュニケーション	文章表現・上級	地理・歴史・社会の用語	日本語VI	対照表現演習・日中／日コア	体験活動B	文芸と表現	日本語で学ぶ現代大衆文化	専門基礎	チュートリアル
	レベル5					日本語V						
中級	レベル4	チュートリアル	発音と自然な話し方	文法・中級		日本語IV		体験活動A	漢字			
	レベル3					日本語III						
初級	レベル2	チュートリアル	サバイバル会話	合併コア (CALL/WBT等)		日本語II		合併コア (チュートリアル)				
	レベル1					日本語I						

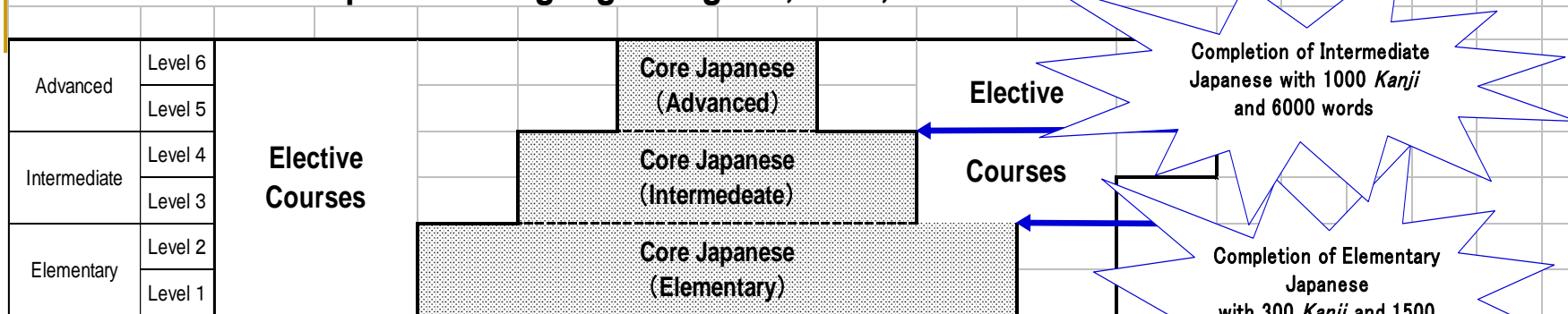
## 秋学期(9月～1月)

上級	レベル6	チュートリアル	上級会話	文章表現・上級	文法・上級	日本語VI	聴解とノートのとり方	体験活動B	新聞とニュースで学ぶ現代日本	日本語で学ぶ現代大衆文化	専門基礎	チュートリアル
	レベル5					日本語V						
中級	レベル4	チュートリアル	ディスカッション	文章表現・中級		日本語IV		体験活動A	漢字			
	レベル3					日本語III						
初級	レベル2	チュートリアル	サバイバル会話	合併コア (CALL/WBT等)		日本語II		合併コア (チュートリアル)				
	レベル1					日本語I						

主に学部留学生対象の科目 (PFC)

主に学部留学生対象の科目 (PFC)

# Framework of the Japanese Language Program, 2005, OBIRIN UNIVERSITY



## Spring Semester (Apr.-Jul.)

Advanced	Level 6	Tutorial	Occupational Communication	Advanced Writing	Terms for Social Studies	Japanese VI	Expressions in Jpn. & Chn./Kor.	Experiential Activities B	Literary Expressions	Modern Pop Culture	Basic Academic Skills	Tutorial
	Level 5					Japanese V						
Intermediate	Level 4	Tutorial	Pronunciation/ Speaking	Intermediate Grammar		Japanese IV		Experiential Activities A	Kanji	Mainly for undergraduate students at PFC		
	Level 3					Japanese III						
Elementary	Level 2		Survival Conversation	Combined Core (CALL/WBT etc.)		Japanese II	Combined Core (Tutorial)					
	Level 1					Japanese I						

## Fall Semester (Sep.-Jan.)

Advanced	Level 6	Tutorial	Advanced Conversation	Advanced Writing	Advanced Grammar	Japanese VI	Listening/ Note-taking	Experiential Activities B	News	Modern Pop Culture	Basic Academic Skills	Tutorial
	Level 5					Japanese V						
Intermediate	Level 4	Tutorial	Discussion	Intermediate Writing		Japanese IV		Experiential Activities A	Kanji	Mainly for undergraduate students at PFC		
	Level 3					Japanese III						
Elementary	Level 2		Survival Conversation	Combined Core (CALL/WBT etc.)		Japanese II	Combined Core (Tutorial)					
	Level 1					Japanese I						

## 学部生の履修できる日本語科目（2005年度 桜美林大学）

### 春学期（4月～7月）

#### 選択科目

上級	レベル6	チュートリアル	職業コミュニケーション	文章表現・ 上級	地理・歴史・ 社会の用語	日本語VI	対照表現演 習・日中/ 日コア	体験活動B	文芸と表現	日本語で学 ぶ現代大衆 文化
	レベル5					日本語V				
中級	レベル4	チュートリアル	発音と自然な 話し方	文法・中級	日本語IV			体験活動A	漢字	
	レベル3				日本語III					
初級	レベル2		サバイバル会話	合併コア (CALL/ WBT等)	日本語II			合併コア (チュートリ アル)		
	レベル1				日本語I					

#### 必修

<b>専門基礎</b>	<b>チュート リアル</b>
-------------	---------------------

主に学部留学生対象の科目 (PFC)

### 秋学期（9月～1月）

#### 選択科目

上級	レベル6	チュートリアル	上級会話	文章表現・ 上級	文法・上級	日本語VI	聴解とノート のとり方	体験活動B	新聞と ニュースで 学ぶ現代日 本	日本語で学 ぶ現代大衆 文化
	レベル5					日本語V				
中級	レベル4	チュートリアル	ディスカッション	文章表現 ・中級	日本語IV			体験活動A	漢字	
	レベル3				日本語III					
初級	レベル2		サバイバル会話	合併コア (CALL/ WBT等)	日本語II			合併コア (チュートリ アル)		
	レベル1				日本語I					

#### 必修

<b>専門基礎</b>	<b>チュート リアル</b>
-------------	---------------------

主に学部留学生対象の科目 (PFC)

授 業 科 目		単 位 数	対 象 レ ベル
日本語 (専門基礎)	Japanese (Basic Academic skills)	4	4～6
日本語 (チュートリアル)	Japanese (Tutorial)	1	1～6
日本語 I	Japanese I	6	1
日本語 II	Japanese II	6	2
日本語 III	Japanese III	4	3
日本語 IV	Japanese IV	4	4
日本語 V	Japanese V	2	5
日本語 VI	Japanese VI	2	6
日本語 (サバイバル会話)	Japanese (Survival Conversation)	1	1～2
日本語 (漢字)	Japanese (Kanji)	1	1～4
日本語 (ディスカッション)	Japanese (Discussion)	1	3～4
日本語 (発音と自然な話し方)	Japanese (Pronunciation/Speaking)	1	3～4
日本語 (文法・中級)	Japanese (Intermediate Grammar)	1	3～4
日本語 (体験活動) A	Japanese (Experiential Activities) A	1	3～4
日本語 (文章表現・中級)	Japanese (Intermediate Writing)	1	3～4
日本語 (日本語で学ぶ現代大衆文化)	Japanese (Modern Pop Culture)	1	4～6
日本語 (文法・上級)	Japanese (Advanced Grammar)	1	5～6
日本語 (聴解とノートのととり方)	Japanese (Listening/Note-taking)	1	5～6
日本語 (新聞とニュースで学ぶ現代日本)	Japanese (News)	1	5～6
日本語 (文章表現・上級)	Japanese (Advanced Writing)	1	5～6
日本語 (職業コミュニケーション)	Japanese (Occupational Communication)	1	5～6
日本語 (対照表現演習・日中)	Japanese (Expressions in Jpn. and Chn.)	1	5～6
日本語 (体験活動) B	Japanese (Experiential Activities) B	1	5～6
日本語 (対照表現演習・日コリア)	Japanese (Expressions in Jpn. & Kor.)	1	5～6
日本語 (地理・歴史・社会の用語)	Japanese (Terms for Social Studies)	1	5～6
日本語 (上級会話)	Japanese (Advanced Conversation)	1	5～6
日本語 (文芸と表現)	Japanese (Literary Expressions)	1	5～6

# 選択科目拡大の要因(1)

## ～学習者の背景の多様化～

- 短期留学生の背景の多様化
  - ・出身・母語・母文化： 英語圏(非漢字圏)の学生のみ  
→ 英語圏(非漢字圏)＋漢字語圏(中国・韓国)等
  - ・既習レベル： 初級～中級(＋中上級の学部生)  
→ 初級～超上級 (＋中上級の学部生)
  - ・専攻： 多様な専攻  
→ 上級では日本語・日文専攻が中心に  
(≠学部生・院生)
- 必修を終えた学生(学部2年生以上)のサポートの需要

# 選択科目拡大の要因(2)

## ～学習者の個人差の質的・量的拡大～

- 学生数の増加による個人差の質的・量的拡大
  - ・動機・ニーズの多様化 アニメ・J-POP ～ ビジネス
  - ・年齢、経済状況から来る学習条件の相違  
(時間、メディア・情報機器へのアクセスの多寡)
  - ・性格、適性、学習スタイル、学習ビリーフなどの違い
    - タイプとして意識できるまでに量的に拡大
    - チュートリアル導入、選択科目拡大 = 学習の個別化
- スケール・メリットの発生
  - = 多様な新科目を作っても履修者を集められる

# 選択科目拡大の要因(3)

## ～教員の意識の変化～

- 「チュートリアル」の導入による教員の意識の変化
  - ・チュートリアルの導入は(2科目から12科目への)選択科目の拡大よりも1年先行
  - ・学生と向き合う時間の確保
    - 学生の背景、ニーズ、学習条件に対する理解の浸透
    - 選択科目は便利なリソース提供の一形態という意識
- 個別化と協働化のバランスへの志向
  - ・クラス内のインターアクションの確保
- 教師自身の専門性を高める必要      例) 発音



# 選択科目拡大のプロセス(1)

## ～プログラム全体のシラバスの構築～

- プログラム全体のシラバス構築が(理念的には)必要
  - ニーズ調査(学生・教員対象)
  - 教員のワークショップ研修＝パフォーマンス・チャート作り  
＝ 4技能をベースにレベル別目標を考案する作業  
(未完成だが)協働的内省の作業を通して発想を共有
  - シラバスを考える観点
    - ・技能(聞く・話す・読む・書く)
    - ・文法(音声／文字・語彙／統語...)、社会言語、社会文化、ストラテジー...
    - ・場面・話題・専門領域
- これらを総合した上で、運用力のレベルをクロス  
→ 科目に配分 → 科目間の内容の関連付け

# 選択科目拡大のプロセス(2)

## ～「科目内選択」の試行～

- チュートリアル<sup>1</sup>の先行導入
  - 自律意識への働きかけが重要だという認識
  - 「科目内選択」を作ろうという意見

科目内選択 = 同一時限の複数クラスの間、  
特定期間の選択モジュール

→ 「チュートリアル」／「体験活動」 で一部実現

- 「科目内選択」のメリット
  - ・教員の選択科目に関する意識が高まる
  - ・複数の教員で一人の学生を複眼的に見られる
  
- 「科目内選択」のデメリット
  - ・(科目でないため)内容が当初、学生に見えにくい
  - ・必修内のモジュールのため、選択意識が強くない
  - ・プログラム内での複雑な操作が必要
  
- 全面的導入の見送り、チュートリアルである程度実現  
例) 複数の学生が共同でテレビドラマの学習  
→ 選択科目の拡大を後押し

# 選択科目拡大の検証・評価(1)

## ～日本語履修者数の増加～

- 総合的な評価は今後数年間の検証が必要
  - 2004年度(春学期・秋学期)  
履修者数の多かった上級科目ベスト3:
    - ・「体験活動」(b) (25名:秋学期、上級)
    - ・「職業コミュニケーション」(春学期:20名)
    - ・「文法・上級」(秋学期:18名)
- \*ほとんどの科目で10名以上



## ■ 2005年度（春学期）

履修者数の多い科目ベスト3:

- ・「職業コミュニケーション」(46名、上級)
- ・「日本語で学ぶ現代大衆文化」(46名、中上級)
- ・「文法・中級」(35名、中級)

## ■ 本当の‘人気科目’

= (対象学生を母集団とした) 選択率の高い科目

短期留学生の人気科目ベスト5:

- ・「対照表現演習(日中／日コリア)」: 65%
- ・「日本語で学ぶ現代大衆文化」: 59%
- ・「文法・中級」: 61%
- ・「漢字」: 56%、「職業コミュニケーション」: 56%



- 短期留学生による平均選択率：50%  
(上級：54%、中級：42%、初級：48%)

- 学生あたりの平均選択科目数：2.3科目  
(上級：3.6科目、中級：1.9科目、初級：1.0科目)

	延べ 人数	学生数	学生あたりの 平均選択科目数	コア 科目数	(チュートリアルを除く) 日本語履修総科目数	その他の日本語による履修科目
短期留学生等 上級選択履修者	89	25	3.6	2	5.6	チュートリアル、学部専攻科目など
短期留学生等 中級選択履修者	72	38	1.9	4	5.9	チュートリアル(、学部専攻科目)など
短期留学生等 初級選択履修者	14	14	1.0	6	7.0	チュートリアル
短期留学生等 全体選択履修者	175	77	2.3	4	6.3	

- コア科目を含めた日本語履修総コマ数：6.3コマ  
\* チュートリアルや日本語による専攻科目を除く  
(上級：5.6コマ、中級：5.9コマ、初級：7.0コマ)



- 必修をなくして、必要学習時間数は足りているか？

- 一般的な必要学習時間数

初級：150～200時間、中級：+150～200時間

- 1学期間の授業時間数

$$1.5\text{時間} \times 6\text{コマ} \times 14\text{回} = 126\text{時間}$$

$$1.5 \times 7 \times 14 = 147$$

$$1.5 \times 8 \times 14 = 168$$

$$1.5 \times 9 \times 14 = 189$$

- チュートリアルを除いた

日本語週当たり総コマ数

上級：平均 5.6コマ

中級： 5.9コマ

初級： 7.0コマ

- 一般的な必要学習時間数

(初級：150～200時間、中級：+150～200時間)をほぼ充足

# 学部生の選択科目履修

## ■ 学部別履修者数

経営政策 > 文・総合文化、国際 > 経済

\* 時間割が最大要因か？

## ■ 学年別履修者数

1年 > 2年、3年 > 4年

\* (必修が5コマあるのに)

意外に多い1年生

\* 2年生以上のサポート  
にも貢献

学部生の選択科目履修				
学部別集計				
学部	文・総文	経済	国際	経営政策
人数	32	8	24	42
学年別集計				
学年	1年	2年	3年	4年
人数	43	29	25	9

# 選択科目拡大の検証・評価(2)

## ～高い出席率～

- 必修のクラスに比べて高い出席率  
(担当者から聞きとり調査)
- 例)ある選択クラス  
履修者10名が学期半ばまで一人の欠席もなく、  
終了時の出席率は95%超
- 本来当たり前のことであるべきだが、必修科目ではこれだけの高出席率を学期末まで維持することは困難
- (時間帯要因等も影響するため要因の特定は難しいが) 学生の選択意識、動機の低い学習者の少なさが要因か
- 個別性への対応 → 自律性の向上に貢献

# 選択科目拡大の検証・評価(3)

～科目の設置形態の評価(全体／科目別／項目間の相関)～

- 設置形態についての学生の評価  
(科目終了後、2004年度のみ)
- 5項目、5点法(1:まったく思わない ～ 5:非常にそう思う)
  - ・クラス頻度 (週1回でちょうどよい)
  - ・レベル (クラスのレベルはちょうどよかった)
  - ・ニーズ適合度 (クラスの内容は自分のニーズにあっていた)
  - ・クラスサイズ (クラスの人気はちょうどよかった)
  - ・科目存在意義 (この選択科目があることはよい)

■設置形態を調べたもの ≠ 授業評価・教員評価

\*レベル、ニーズ適合度には

教員のパフォーマンスの要素が一部含まれる

■レベルやニーズ適合度の点が相対的に低い科目でも、科目存在意義は(1科目を除き)4点以上

→ 選択科目の設置には全体として高評価

2004年度 選択科目 設置適切度		学期別総合評価		5点法(1~5)					
科目名	学期		1(クラス頻度)	2(レベル)	3(ニーズ適合度)	4(クラスサイズ)	5(科目存在意義)	総合	
春学期 全科目平均	春	平均	3.91	3.75	3.81	4.05	4.23	3.95	
春学期 全科目標準偏差	春	標準偏差	1.09	1.10	0.98	1.01	0.95	1.04	
秋学期 全科目平均	秋	平均	4.08	4.00	4.06	4.07	4.45	4.13	
秋学期 全科目標準偏差	秋	標準偏差	1.17	1.08	0.99	1.04	0.94	1.06	

2004年度 選択科目 設置適切度 科目別順位				5点法(1~5)			赤字は3.5未満	
科目名	学期		1(クラス 頻度)	2(レベ ル)	3(ニーズ 適合度)	4(クラス サイズ)	5(科目存 在意義)	総合
(体験活動)(b)	春	平均	4.00	4.40	4.60	4.56	4.91	4.49
(聴解とノートのととり方)	秋	平均	4.42	4.25	4.50	4.42	4.83	4.48
(体験活動)(b)	秋	平均	4.61	4.35	4.21	3.83	4.71	4.34
(文章表現・上級)A(b)	春	平均	4.63	4.00	4.00	4.38	4.63	4.33
(体験活動)(a)	春	平均	4.33	4.00	3.89	4.00	4.50	4.14
(新聞とニュースで学ぶ現代日本)	秋	平均	3.77	3.92	3.85	4.31	4.54	4.08
(体験活動)(a)	秋	平均	4.00	3.83	3.67	4.33	4.33	4.03
(翻訳演習・中日)	春	平均	4.33	3.44	3.89	4.44	4.00	4.02
(文章表現・上級)	秋	平均	4.00	3.90	4.00	4.00	4.00	3.98
(上級文法)	秋	平均	3.55	3.64	4.00	4.00	4.09	3.85
(中級文法)	春	平均	2.50	4.00	4.17	4.17	4.33	3.83
文章表現・上級)A(a)	春	平均	4.00	3.43	3.43	4.14	4.14	3.83
(漢字)	春	平均	3.89	3.89	3.56	3.67	4.00	3.80
(職業コミュニケーション)	春	平均	4.18	3.60	3.45	3.73	4.00	3.80
(ディスカッション)	秋	平均	3.56	3.56	3.78	3.89	4.11	3.78
(発音と自然な話し方)	春	平均	3.09	3.09	3.45	3.64	3.64	3.38

表5 2004年度日本語選択科目 設置適切度 項目間の相関(ピアソンの相関係数)

	クラス頻度	レベル	ニーズ適合度	クラスサイズ	科目存在意義
クラス頻度	1				
レベル	0.365	1			
ニーズ適合度	0.163	<b>0.795</b>	1		
クラスサイズ	0.246	0.405	0.586	1	
科目存在意義	0.432	<b>0.884</b>	<b>0.778</b>	<b>0.628</b>	1

- 科目存在意義と強い相関があるのは、  
順にレベル、ニーズ適合度、クラスサイズ
- レベルとニーズ適合度にも高い相関(因果関係?)
- クラス頻度(週1回)にはおおむね問題なし
- レベルやニーズ適合度の点が相対的に低いものでも、科目存在意義は高く、かつ、レベルとニーズ適合度は科目存在意義と強い相関。

→ レベルのコントロールと、内容のニーズの適合度の向上により、評価はさらに上がることが予想される

# 選択科目拡大の意義・課題(1)

## ～学習の個別化と協働化のバランス～

- 選択科目の拡大＝学生の利用しやすい系統的なリソースの提供
  - ・紙媒体(教科書・問題集・参考書など)
  - ・情報機器(コンピュータ・ビデオなど)
  - ・人(教師・クラスゲストなど)といったリソースが単体で存在するのでなく、融合された形で提供される
- 教師の主導によってではあるが、それらが「教師のコントロール」と「学生の自律性」(選択意識)の二者の平衡の上にクラスが成立



- 通常の必修の総合クラスが教師主導、  
チュートリアルが学生主導のそれぞれの極にあり、  
その両極の中間に位置するのが選択科目

必修総合科目、選択科目、チュートリアル(個別学習プログラム)の持ちやすい性質					
	教師の コントロール	学生自身の選択 (自律性・ ニーズ適合度)	協働 可能性	リソース提供の 体系性	専門性
必修総合科目	強	低	高	高	中
選択科目	中～強	中	高	高	高
チュートリアル	弱	高	低～中	低	学生の選択と 教師の能力次第

- 課題：利点の融合、欠点の緩和＝自律性を重視したクラス運営
- 課題：学生の自律意識、学習スタイルやリソースの利用と、  
選択科目の関係の解明

# 選択科目拡大の意義・課題(2)

～科目間連携など「言語教育プログラム」の管理

## ■ 科目間連携の必要性

- ・シラバスの整合性の確保
- ・学生情報の交換システム構築
- ・教員同士のネットワークの確保

## ■ 日本語運用力の評価に基づくプログラム評価

## ■ 学生の学習時間確保や教員の専門性などは、 理論的にも第二言語習得の重要な要因

→言語教育プログラムの管理・コーディネーションを  
もっと研究対象に！

ありがとうございました

Thank you

